2011年度上期　本社定点観測

私の景気診断

<1面参照>

牧野フライス製作所社長
牧野　二郎氏

―景気の先行指標である工作機械受注が上向いています。

「工作機械の需要は世界的に急回復している。日本工作機械工業会が年初に1兆1000億円と設定した2011年受注額見通しも、目標を上回るペースで推移している。外需の回復基調は今後も変わらないし、今の水準なら目標値の上方修正もあるだろう。だが受注回復の最大の理由はリーマン・ショック後の落ち込みの反動。08―10年にやるべき投資が一挙に表れた。本来の実力とは言えない」

―国内の設備投資も復調しています。東日本大震災の影響をどう見ていますか。

「工作機械の内需は前年比で倍近い。だが昨年は低迷しており、最盛期の状況からは程遠い。世界的に見て日本の設備投資の回復が一番遅れており、本来ならばもっと良くてもおかしくない。震災は立ち遅れの要因の一つかもしれない。一方で内需の回復はこの程度との見方もできる。産業構造が変わり、需要が元に戻るというより別の形になっている。震災で空洞化はさらに加速する。それをカバーする新規産業が出てくればいいが、そう簡単でもない」

―夏場の節電対策が事業活動のネックです。

「細かな節電対策を積み重ねて、操業に支障がでないよう万全の態勢で臨む。もちろん影響もある。例えば部品を加工する機械工場。当社は下期にまとまった数の製品出荷があり、上期に機械工場をフル稼働する必要がある。夏場の電力需給を想定して、ある程度受注を抑制している面もある。今期の受注目標は前期比2割増の計画だが、もっと伸ばせる。この程度で我慢している」

―中国の金融引き締めの影響については。

「昨年から中国政府が金融引き締め策を実施し、市場はこれまでの強気一辺倒という感じではない。リーマン・ショック後の投資ブームから見ると投資を抑制している。経済政策の影響は受注数字にも表れてきそうだ。中国政府は景気の抑制・促進をこまめな経済政策で展開していて、見通しは難しい。ただ日本の工作機械需要は中国内需より中国輸出関連の比重が大きい。伸びる基調は変わっていない」

（村上毅）

外需の回復基調 変わらず

日立ソリューションズ社長
林　雅博氏

―ITサービス業界の景況感をどう見ますか。

「企業のIT投資に東日本大震災がどれほど影響するか見通せない。4―5月の当社の受注状況を見ると、例年より立ち上がりが鈍い。システムの本格的な更新や改修を様子見、先送りする気配が全体的にある。企業からすれば喫緊の課題ではないため、当初予定したIT投資を保留しているのだろう。8月のお盆明けや9月の初旬ごろには、政府の被災地支援が進み、企業のサプライチェーンも回復する。企業の10―3月期の事業計画の見通しが明らかになるのもこの時期であり、保留しているIT投資がどれだけ動きだすか見えてくるだろう」

―データセンターへの引き合いが増えるなど、震災を契機にしたIT需要が生まれています。

「当社も在宅勤務支援サービスの引き合いが増えている。今後は、夏の電力供給不足に向けた企業の節電を支援するサービスを各社が打ち出していくだろう。ただ、ITサービスの主力を占めているシステム構築（SI）はマイナス成長が見込まれており、震災に伴う需要でどれだけカバーできるかは未知数だ」

―ネットワーク経由でIT資源を提供するクラウドコンピューティングが、震災によりさらに注目されています。

「ことしはもともとクラウドの普及がより進むと予想していたが、その動きにいっそう拍車がかかると見ている。ただ、コスト削減だけが導入目的ではなくなる。企業が長期的な事業戦略の中でITの全体最適化を考え、SIなど幅広い選択肢と組み合わせてクラウドを導入するようになるのではないか。当社も企業のITを複合的にとらえ、幅広いサービスを提供していく」

―ITサービス各社の2012年3月期の業績をどう予想しますか。

「震災の影響がどれほどか分からないが、競争環境は引き続き厳しい。IT需要が伸びない中で、パイの奪い合いとなる。ただ、11年3月期は減収減益傾向が強かったが、12年3月期は増収増益の企業が多くなるのではないか。当社も増収増益を計画しており、震災の影響で計画を下方修正することは現在考えていない」

（戸村智幸）

9月、IT投資見えてくる

菱食社長
中野　勘治氏

―今回の東日本大震災では商品供給のインフラとして、被災地にいかに対応されましたか。

「即座に対策本部を設置し、被害状況の把握にあたった。東北のセンターが被災し、大変な状況だったが、翌日から東京から60人、70人という規模で人材を派遣し復旧に努めたため、とにかく商品はいろんな形で供給することができた。（急激な需要増加で）品不足に陥ったが、関西や九州方面のメーカーなどから、応援できることがあれば言ってほしいと力強い言葉を頂いたのは本当にありがたかった」

―今後の景気動向はどう見ますか。

「日本は必ず復活すると思っている。景気うんぬんよりも今回の震災を教訓にして、力強い日本をどう構築するかという議論に入ることが大事だ。風と共に去りぬの一説を思い起こす。こんな時こそ『明日という別の日がある』と力強く行きたいものだ」

―政治の混迷が続いています。

「政府には国民の財産と生命を守る義務がある。この一点に絞ってやってほしい。こういう緊急時に与党も野党もない。もっと一枚岩になってやってほしい。被災地のこと、被災者の心理状態を考えて頂きたい」

―震災前まで消費はフワリと浮いた感もありましたが、今後の消費はどう見ますか。

「気がかりなのは食料の高騰が続いていること。今後、2008年のように穀類でパニックが起きる可能性もある。ただ08年当時と違うのは円高であること。その点で少し余裕がある。コーヒー豆や食用油、小麦粉関連製品が値上がりし始めている」

「とくに心配なのは今後の量的確保。中国が13億の民を食べさせるために、これだけ積極的に買いに回ったら、いろいろと上がってくる。需給関係からくる価格の高騰が消費にいかに影響するかだ」

―消費刺激に必要なことは。

「流通のアンシャン・レジーム（旧体制）を問い直すことが生活者から迫られている。我々中間流通の立場でいうと、モノを右から左にではなく、マーケットを科学する目を持たないといけない」

（編集委員・森谷信雄）

震災教訓に〝力強い日本〟構築

富士電波工業社長
横畠　俊夫氏

―最近の景況感は。

「2月時点の受注がリーマン・ショック前の水準に戻るなど景気が回復しているが、震災後は消費マインドの低下による景況感の悪化を感じる。世間一般よりも遅れて景気が回復する真空炉業界は良くなってきていたが、今後は見通しにくい状況だ」

―足元の受注状況は。

「震災の影響で数件延期になったが中止になった案件はない。新規商談についてはスローダウンしているが震災の影響か、震災に関係ない業界の動向かは分析しにくい。2012年8月期の業績に影響が出そうだ」

―景気は今後どのように推移すると見ますか。

「4―9月は横ばい、10―3月は景気が悪くなる業界もあるが、復興需要が穴埋めして全体的には横ばいとなると見る」

―製造面での東日本大震災の影響は。

「生産設備は被害がないが、材料調達で真空炉の根幹を担う炭素繊維製の断熱材の調達が滞っている。根幹部品のため気軽に海外製のものを使うこともできず、日本メーカーの復旧を待っている。また電線も品薄で調達しにくい。電線は国の規格もあるため従来は国内製を使っていたが、今回海外製の採用についても検討を始め、台湾や韓国製を検討している。使い勝手が良ければこれからも海外製を使い続けるかもしれない。このため、顧客に相談して使う部品を変更するなどしながら製造する」

―震災に伴い事業構造が変化しそうですか。

「当社は半導体や太陽電池向け素材の川上工程で使われる真空熱処理炉が主力。日本は高機能素材分野で進んでおり、納入先は国内がほとんどだ。08年ころから川上工程も海外へ移すという顧客が少しずつ現れ始めていたが、震災によって海外シフトの傾向が加速するか、それとも逆に国内に留まるのか見極めたい。海外シフトに対応できる準備はしておく」

―景気対策として政府に要望することは。

「法人税を下げて消費税など間接税を上げる税制改革を求める。また環太平洋連携協定（TPP）加盟を決めてほしい。独自路線で生き残るのは難しい。加盟により世界での発言権を維持してほしい」

（大阪・山路甲子）

復興需要 全体的には横ばい

いつも感謝！

「決まった時間に新聞が届く」この当たり前のことのために全国
約39万2千人の新聞販売所従業員が今日も元気に配達しています。

応募方法
はがき、封書、ファクス、Eメールいずれでも可。住所（都道府県名から）・郵便番号・氏名・10月1日現在の年齢・性別・職業（小・中学生、高校生の場合は学校名）・電話番号（必ず連絡がとれる番号）・新聞配達経験の有無を記入してください。
※応募作品は事実に基づいた内容で、自分自身が聞いた・感じた内容の未発表作品に限ります。※作品の返却はいたしません。※作品の一部を内容を損なわない程度に修正することがあります。

賞金等
大学生 社会人部門（19歳以上）［最優秀（1編）賞金10万円および記念の盾／優秀（1編）賞金5万円および記念の盾／入選（8編）賞金1万円および表彰状］
中学生 高校生部門（13歳以上18歳以下）［最優秀（1編）図書カード3万円および記念の盾／優秀（1編）図書カード2万円および記念の盾／入選（8編）図書カード1万円および表彰状］
小学生部門（12歳以下）［最優秀（1編）図書カード2万円および記念の盾／優秀（1編）図書カード1万円および記念の盾／入選（8編）図書カード5千円および表彰状］

締切　2011年7月1日（金）（当日消印有効）

発表
10月。入選者には直接ご連絡します。
また各社新聞紙面、新聞協会ホームページでも発表。
※受賞作品は本コンテストの趣旨に沿って、日本新聞協会ならびに新聞協会加盟各社、新聞販売所のPR活動などに使用させていただきます。
※個人情報については、選考・発表にかかわる事項以外には使用いたしません。発表時には、受賞者の氏名、年齢、都道府県名、区市町村名を公表させていただきます。

審査
社団法人日本新聞協会販売委員会
ロザン（特別審査員）

表彰
表彰式では、各部門の最優秀および審査員特別賞受賞者を招き、特別審査員・ロザンから直接賞金等が贈呈されます。

問合せ 送り先
〒100-8543（住所不要）日本新聞協会「エッセーコンテスト」係
電話:03-3591-4405　FAX:03-3591-6149
Eメール（添付形式にせず）essay@pressnet.or.jpへ。

本コンテストは右記ホームページからもご応募いただけます。

社団法人 日本新聞協会
〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル
http://www.pressnet.or.jp

［特別審査員］ロザン 菅広文 宇治原史規

第18回 新聞配達に関する
新聞配達に関するちょっといい話、心温まるエピソード、
新聞配達での経験などを、四百字程度にまとめてお送りください。

エッセーコンテスト作品募集